

**令和8年第1回姫路市議会定例会（未定稿）**

**令和8年3月6日（金）**

**○岡部敦吏議員（登壇）**

刷新の会、岡部敦吏と申します。通告に基づきまして、質問をさせていただきます。

昨今の物価高騰や金利上昇は、市民生活や市内事業者の経営に大きな影響を及ぼしており、多くの市民が将来への不安を抱えております。このような状況下において、本市の財政基盤を支え、未来の投資の原資となる基金の現状を正確に把握し、いかにして有効に活用していくかは、市政の最重要課題の1つであります。

そこで本日は、市民の大切な財産である基金の現状と今後の活用について、市民の皆様に分かりやすくお示するとともに、市の将来を見据えた財源確保の在り方について、市長並びに関係部局のご所見を伺ってまいります。

初めに、本市の財政の貯金とも言うべき基金の現状について、基本的な事項から確認させていただきます。

まずは、具体的な数字をお示しいただきたく存じます。

令和6年度末時点における本市の基金全体の残高は幾らになりますでしょうか。また、その内訳について、預金運用及び債券運用の内訳額をそれぞれお答えください。

併せて、これら多額の基金を運用するに当たり、どのような判断に基づいて運用対象とする金額を決定されているのか、ご説明をお願いいたします。

以上で、私の第1問とさせていただきます。

**○石堂大輔議長**

峯野財政局長。

**○峯野仁志財政局長**

お答えいたします。

まず、基金残高でございますが、令和6年度末時点の基金残高は770億2,653万8,000円で、内訳は、預金が599億2,327万1,000円、債券での運用が163億3,293万3,000円、そのほか、これは土地開発基金で取得した土地などでございますが、7億7,033万4,000円となっております。

また、運用対象とする金額を決定する際の判断基準といたしましては、基金の設置目的や事業の執行計画を踏まえ、当面の間、取崩しの必要がないと判断した資金について債券で運用することとしております。

以上でございます。

**○石堂大輔議長**

13番 岡部敦吏議員。

**○岡部敦吏議員**

ご回答ありがとうございます。

ただいま、基金の総額が770億円に上ること、また、当面取崩しの予定がない資金を運用対象とされている旨のご答弁をいただきました。

大変大きな金額であり、その運用方法は本市の財政に少なからぬ影響を与えるものと考えます。

そこで次に、基金の運用方針についてお伺いいたします。

昨今の金利情勢や債券市場は先行き不透明な状況が続いております。このような社会経済情勢を踏まえ、市として、今後の基金運用について具体的な計画をお持ちでしょうか。

また、市民の大切な財産を守るという観点から、どのようなリスク管理の下で運用を行っていく方針か、ご答弁をお願いいたします。

**○石堂大輔議長**

峯野財政局長。

**○峯野仁志財政局長**

基金運用は、金利情勢や債券発行状況など外部的な要因に大きく左右されるため、固定的な数値目標を伴うような詳細な運用計画を固めてしまうことにより、逆に市場の変動に柔軟に対応できず、効果的な運用ができない場合があるなど、実務的な問題もあると考えます。

そのため、現在は金利等の金融市場の動向をタイムリーに捉えつつ、事業部局の執行予定を踏まえながら、フレキシブルな対応により運用を行っております。

また、リスク管理につきましては、地方公共団体の基金運用は、地方自治法等で「確実かつ効率的に運用しなければならない」とされていることから、この規定の趣旨にのっとり、まずは元本の安全性を確保する確実性を最優先事項として、国債等の債券で運用することとしております。

以上でございます。

**○石堂大輔議長**

13番 岡部敦吏議員。

**○岡部敦吏議員**

ありがとうございます。

安全性を最優先し、元本保証が確実な手法で堅実に運用していくという基本方針、よく理解いたしました。

基金の運用につきましては、地方自治法第241条第2項並びに地方財政法第4条の3第3項、地方財政法第8条など、様々な法の規定に基づいた運用が必要となります。

その一方で、物価高騰に直面する市民生活を守るためには、従来の歳出削減努力に加え、あらゆる手法を駆使して新たな財源を確保していくという攻めの姿勢も、また今の時代に求められているのではないのでしょうか。

昨今の物価上昇を考えますと、仮にですが、現在では100億円でできる工事が、5年後には150億円で工事をしなければならないという、インフレ対策を講じていくためにも考えますと、基金の運用は守りの姿勢とも言えるのではないのでしょうか。

近年の議決更正議案で上がってきております物価スライド条項による工事費の増額を鑑みますと、市政における財政運営の健全化としても、より積極的な基金の運用は検討していかないといけないかと考えます。

そこで、具体的な提案としてお伺いいたします。

基金の運用につきましては、各自自治体において様々な取組を行っております。資産運用による収益を財源として、将来の市民負担を軽減するための減税積立基金を設立するなどの先進的な取組も見られます。国におきましても、資産を積極的に運用するという機運は高まってきております。

昨年末、たまたまの機会となりますが、この減税積立基金を提唱されておりました元杉並区長の山田宏参議院議員が姫路市にて講演される機会があり、私も清元市長とともに拝聴をさせていただきご縁をいただきました。

また、政府の考え方ではありますが、金融庁において資産運用立国の実現に向けた政策プランを作成しており、その運用について、努力目標ではありますが、アセットオーナー・プリンシプルという規則を提唱しております。

こちらは、基金の安全性のある運用の上でのルールを明確にし、より公開された運用計画を示す提言であります。現在は、公的年金や共済組合、企業年金などがメインではありますが、自治体としての基金も、こちらの理念に準じた健全な運用が求められているかと考えます。

一般の杉並区では、ホームページにて基金運用についての結果を公開されております。

さらに、国会におきましては、公明党さんを中心にジャパンファンド、いわゆる政府系ファンドにつきまして議論が進んでおり、財源をつくり出すという構想を持つことの重要性を国や自治体を問わず考えていかなければならない時代になってきているのかと考えます。

地方自治法に準拠した運用は大前提ではありますが、本

市におきましても、このような新たな発想に立った基金の設立や運用についてご見解をお聞かせください。

#### ○石堂大輔議長

峯野財政局長。

#### ○峯野仁志財政局長

議員ご提案の新たな発想に立った基金につきましては、現在設立する考えはございません。

本市におきましても、一例としまして、各年度において剰余金の発生が見込まれる場合、公共施設整備基金に追加積立てを行い、施設整備など大規模な公共事業の実施に際しその基金を充当することにより市債の借入を抑制し、将来の公債費負担を軽減できるよう取り組んでおります。

健全で持続可能な財政を維持するため、あらゆる手法を駆使して財源を確保することは、今後の財政運営における重要課題であると認識しております。

さらなる財源確保という視点から、議員お示しの他都市事例や国の動きを注視しつつ研究してまいります。

以上でございます。

#### ○石堂大輔議長

13番 岡部敦史議員。

#### ○岡部敦史議員

ありがとうございます。

基金の運用の議論も含め、物価高騰、金利上昇というこの歴史的な局面においてさらなる財源を確保していくことは市政の喫緊の課題であるかと考えます。

参考となりますが、月刊誌「地方財務」によりますと、基金運用として、債券運用されている自治体では、基金残高における債券比率を今後の方針として引き上げていく考えを示している自治体の比率が多く、扱っている債権の上位には国債、地方債、JFM債などが挙げられております。

本市としましては、今後どのように取り組んでいかれるのか、お聞かせください。

#### ○石堂大輔議長

峯野財政局長。

#### ○峯野仁志財政局長

長らく続きました低金利の期間におきましても、本市ではいち早く、国債や県債だけでなく、日本政策投資銀行債などのいわゆる財投機関債にも運用対象を広げ、積極的な基金運用を行ってまいりました。

金利が上昇局面に入った現在におきましては、基金の運

用は歳入確保の重要かつ有効な取組であると言えます。

そのことを念頭に、これまで以上に金融機関との連携を密に、専門的な知見に基づく金利動向や新たな金融商品に関する情報を収集し、財源確保に努めてまいります。

以上でございます。

**○石堂大輔議長**

13番 岡部敦史議員。

**○岡部敦史議員**

ありがとうございます。

繰り返しになりますが、昨今の物価高騰や金利上昇は、市民生活や市内事業者の経営に大きな影響を及ぼしており、これらは市の財政運営においても大きな影響があり、財源確保が重要な課題であると私も認識しているところであります。

先日の代表質疑におきましても、市民サービスや公共施設の在り方を時代に即して抜本的に見直し、事業の最適化に努める旨のご答弁もございました。

一方で、市が保有する財産を有効に活用し、財源確保を行うことも重要な取組であるかと考えております。

要望となりますが、今後の基金運用に対する前向きな検討と、姫路市の未来のために市民生活に資する財政運営を強く期待し、私の質問を終わります。

**○石堂大輔議長**

以上で、岡部敦史議員の質疑を終了します。